

福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業における製品開発事例 ー読書という趣味に特化したサイドテーブルの開発ー

隈本 あゆみ*1 楠本 幸裕*1 青木 幹太*2 田中 克典*3 溝口 瑛*4

Development of a Side Table which Specialized for the Reading Hobby

Ayumi Kumamoto, Yukihiro Kusumoto, Kanta Aoki, Katsunori Tanaka and You Mizoguchi

一龍木工有限会社は、宿泊施設やマンションなどのオーダー家具の製造・販売を行っている企業である。企業からの委託に基づき製作される家具の売り上げ比率が 96 %と高く、外的要因の影響を受けやすいため、自社ブランド製品の売り上げ比率を向上する目的をもって「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業」に参加し、製品開発に取り組んだ。その結果、「読書」に特化し、「読書」における困りごとやモヤモヤを解決する、テーブルなどの小型家具、というコンセプトを構築し、スタジオ・ヨーがデザインを担ったサイドテーブル「BOOKMARKER」を開発・製品化した。

1 はじめに

本報では、「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業」（以下、「本事業」という）における一龍木工有限会社（以下、「一龍木工」という）による製品開発の取り組みを報告する。本事業の目的や概要については、令和2年度研究報告掲載「福岡県家具ブランド力向上支援事業 製品企画力高度化支援事業における製品開発事例（その1）」¹⁾内の「1 はじめに」と「2 方法」を参照していただきたい。また、本事業において一龍木工による製品開発に関わった製品開発グループ及びデザイン事業者のメンバーを表1に示す。

表1 製品開発グループとデザイン事業者

製品開発グループ	デザイン事業者
・九州産業大学 芸術学部 青木幹太教授 ・一龍木工有限会社 ・インテリア研究所	・スタジオ・ヨー

2 事業の取り組み内容

2-1 製品開発の目的

一龍木工は宿泊施設やマンションなどのオーダー家具の製造・販売を行っている、従業員 5 名（事業参加当時）の企業である。B to B（企業間取引）の売り

上げ比率が 96 %と高く、外的要因の影響を受けやすいため、影響を受けにくい自社ブランド製品の売り上げ比率を上げる必要性を感じていた。既存の自社ブランド「Kifto(キフト)」(写真 1)はキッズ市場に向けたブランドであり、一定の売り上げはあるものの、大人に向けた第二の自社ブランドの立ち上げを望んでいた。そこで、本事業に参加し、新ブランド第一弾となる商品の開発を行うこととなった。



写真 1 キッズ市場向けの自社ブランド「Kifto」製品

2-2 製品コンセプトの構築とデザイン事業者の選定

本事業における製品コンセプトの構築は一龍木工が中心となり、適宜、製品開発グループがフォローをする体制で行った。一龍木工は当初、日本の伝統的な木工技法である継ぎ手²⁾を使い、自社の技術力をアピールするブランドを立ち上げようと考えていた。しかしながら、市場調査を行う中で技術力をアピールするコンセプトだけでは競合に打ち勝つことができないことが分かった。そこで、新たに立ち上げるブランドでは一龍木工の技術力を使い「趣味」にフォーカスした小型家具への展開を目指し、本事業においては「趣味」

*1 インテリア研究所
*2 九州産業大学
*3 一龍木工有限会社
*4 スタジオ・ヨー

の中でも市場規模が大きい「読書」に特化した製品を開発する、という製品コンセプトを構築した。

次に、製品開発グループはデザイン仕様書の作成を行った（図 1）。デザイン仕様書とは、デザイン事業者に委託する製品デザインの内容を細かく記載したものである。

（基本コンセプト）

- ・「読書」を日常的に行う人が抱えている困りごとやモヤモヤを特定しそれを解決する「小型家具」
→小型の家具であれば、種類は問わない
小型家具の例）スツール、座椅子、小型のテーブル、本を運ぶためのワゴン、小型の本棚など
- ・愛着をもって長く使用できる、シンプルでミニマムな外観であること

（デザイン仕様書の主な仕様）

- ・華美でない、スタンダードになり得るデザイン
- ・機能性とインテリア性のバランスが取れた、暮らしに馴染むデザイン
- ・おおよそ 600mm 四方に収まるサイズを想定例として、女性がひとりで楽々と運び、設置できるサイズ感
- ・主材には「ヒノキ柾目（国産）」を使用する

図 1 仕様書の概要

開発グループによる議論を重ね、“脇役としてユーザーに寄り添う、「読書」を極める小型家具のデザイン”という開発する製品のテーマを構築し、これに基づきデザイン事業者を全国から募集した。

公募に対し、8 社から 9 件寄せられたデザイン提案の中から、最もコンセプトに沿い、安定性も高い、スタジオ・ヨー（福岡県）の提案によるサイドテーブル「BOOKMARKER」（図 2）が審査委員会によって採択された。

2-3 デザインの具現化(製品の製作)

製品開発グループとスタジオ・ヨーは、「BOOKMARKER」開発において、以下 2 点の課題を解決し具現化した。

①製品コンセプトの実現

スタジオ・ヨーが提案した「BOOKMARKER」は 1 枚

の板から各部材を余すことなく切り出す点がポイントであった。しかし、提案当初のサイズでは NC ルーターでの加工上、必要な切削幅が考慮されていなかった。そこで、天板を含めたサイズ調整を行い、審美性を備えながら 1 枚の板から切り出しできるよう修正を行った。

②安定性の向上

「BOOKMARKER」は提案当初、上端から下端まで同じ幅であった。しかし、一龍木工が製作したモックアップ（写真 2）により、天板に物を置いた時の安定性が不足しているという課題が見つかった。そこで、安定性を向上する目的で下部の幅を広げ台形状とするデザイン変更を行った。その結果、安定性を向上できたことが確認された。



図 2 採択された「BOOKMARKER」



写真 2 一龍木工が作成したモックアップ

以上、2 点の課題を解決し、「BOOKMARKER」の製品化に至った（写真 3）。

「BOOKMARKER」は意匠権の保護を目的として、一龍木工と福岡県の共同で全体意匠を出願・登録された³⁾。

3 まとめ

一龍木工は本事業へ参加し、製品開発グループの協

力を得て、読書という趣味に特化したサイドテーブルという製品コンセプトを構築した。更にそのコンセプトに基づくデザインをスタジオ・ヨーが担当することで、「BOOKMARKER」を製品化した。

事業終了後、一龍木工はスタジオ・ヨーとパッケージの製作や製品ホームページの立ち上げ等、プロモーションに関わる取り組みを行い、2025年6月10日に製品販売に至った。今後はBtoBをメインに、販売を展開していく予定である。



写真3 完成した「BOOKMARKER」

4 参考文献

- 1) 石川 弘之，隈本 あゆみ，西村 博之，青木 幹太，酒見 史裕，酒見 典広，田中 敏憲：福岡県工業技術センター研究報告，No. 30，pp. 21-24（2020）
- 2) 鳥海 義之助：図解木工の継手と仕口，理工学社（1980）
- 3) 意匠登録 第1795955号